

〔科目名〕 卒業研究	〔単位数〕 4単位	〔科目区分〕 卒業研究科目				
〔担当者〕 河野秀孝		〔授業の方法〕 演習				
〔演習テーマ〕 <p>本講義では、卒業論文執筆のための講義であると考えてください。</p> <p>理論面では、皆さんがミクロ経済学や国際貿易論で、既に履修済みの基本的モデルから出発し、理論モデルの応用側面に焦点をあてます。近年の目覚ましい理論及び実証モデルの発展にも言及し、体系的論理的思考のもとに実証研究のための仮説を導くことが出来るようになることを目指します。</p> <p>実証面では、皆さんが論理的に導出した仮説の検証をどのように行うかを考えます。仮説が、自分だけの思い込みでなく、目的としたものの本質を浮き彫りにしているかを、データでもって検証出来るようになることを目指します。</p> <p>この経済研究は、皆さんがこれまで履修した経済理論の応用で、毎日の経済現象を題材とした体系的論理的思考の訓練として、卒業論文を執筆することです。まず、論文のテーマが問題であり、よく絞り込まれていること。そして、どのような視点から論理の枠組み（モデル）を構築し、どのような方法で仮説の検証をするかを考えることです。</p>						
〔演習内容〕 論文執筆を念頭に、皆さんには以下のことを考えてもらいます。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 日ごろの経済現象を題材として、論文執筆するわけですが、まず何が経済問題として分析の対象になりえるかを考えてみる。 2. テーマを絞り込むために関係ある過去の文献を読みながら、どこまで研究されていて、どこが未だなされていないのかを明確にするため、問題背景の論文系譜を調べる。 3. テーマを絞り込み、過去の論文との比較で、執筆論文の位置付け、視点の違いを明確にする。 4. 独自の視点を反映させた論理体系を構築し、検証可能な仮説を導く。 5. 必要なデータを収集し、計量的に仮説の検証をする。 						
〔科目の到達目標〕 課題・テーマに対して、論理的思考の枠組みとしてのモデルを構築し、卒業論文を完成させること。						
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕						
学 部				学 科		
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○
〔前提条件〕 経済演習Ⅱを履修済みであること。						
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 成績評価は、定期的なレポートの提出とクラスでの発表に基づき、評価する。 成績評価の基準は概ね以下の通りです。						
〔教科書等〕 資料を適宜配布。また、参考書として、 <ol style="list-style-type: none"> 1. ハル・R・ヴァリアン著 佐藤隆三監訳『入門ミクロ経済学 [原著第9版]』勁草書房、2015年。 ISBN 978-4-326-95132-1 2. ポール・ミルグロムとジョン・ロバーツ（訳 奥野正寛 他）「組織の経済学」NTT出版、1997年 						

【実務経歴】

製造業での実務経験を活かし、私たちの生活の身近な事例を考えながら、経済の諸問題を統一的・体系的に理解・分析できるようになることを目的とします

授業スケジュール

時期	テーマと内容
4月から 5月	論文のテーマ探し。
6月から 7月	テーマの絞り込みと、モデル構築。
10月か ら11月	モデルから出てくる仮説の導出と、仮説の検証(計量的検証、歴史的検証)。
12月か ら1月	論文初稿の提出、クラスでの発表。 最終稿の提出。